

第1章 市勢状況等の把握

1.市の概要

2.市の人口特性

3.流出入人口等の把握及び転出入人口の把握

4.地区特性の把握のまとめ

5.大まかな把握及び課題の抽出

第1章 市勢状況等の把握

1. 市の概要

(1) 市の概要

成田市は、千葉県の北部中央に位置しており、北は利根川をへだてて茨城県と接し、西は県立自然公園に指定されている印旛沼、東は香取市と接しています。

市の西側には根木名川、東側には大須賀川が流れ、それらを取り囲むように広大な水田地帯や肥沃な北総台地の畑地帯が広がっています。北部から東部にかけての丘陵地には工業団地やゴルフ場が点在しており、南部には成田国際空港があります。

市の中心部である成田地区は、1000年以上の歴史がある成田山新勝寺の門前町として栄えてきました。市内にはほかにも数多くの寺社が点在し、豊かな水と緑に囲まれ伝統的な姿と近代化された国際的な姿が融和した中核都市です。

平成18年3月27日に香取郡下総町、大栄町を編入し、新しい成田市が誕生しました。

面 積	213.84k m ² 【平成23年1月1日】				
	区分	田	43.94k m ²	畑	34.66k m ²
		宅地	25.29k m ²	山林	41.22k m ²
		原野	5.42k m ²	雑種地	45.46k m ²
		池沼	0.60k m ²	その他	17.25k m ²
人 口	126,801 人【平成24年3月31日現在】				
	男	64,154 人		女	62,647 人
	人口密度	593.0 人／k m ²		世帯数	54,688 世帯

資料：成田市統計書、成田市ホームページ



資料：成田市ホームページ

（２）市の沿革

本市は、江戸時代中ごろ以降、成田山新勝寺の門前町として各地からの参詣客で栄えるようになり、明治時代から昭和初期にかけて合併等を行ってきました。

昭和 41 年 7 月 4 日、新東京国際空港（現在は成田国際空港）の設置が決まり、昭和 53 年 5 月 20 日に我が国を代表する国際空港として開港しました。以降、空港滑走路の拡張や発着回数の拡大等に伴い、鉄道の開通、工業団地や物流施設の立地、就業者等の住宅地開発及び商業施設、宿泊施設等の立地等も行われ、都市化が進展しました。現在までに、日本の玄関としての国際空港都市及び国際交流拠点都市として重要な役割を担うことになりました。

① 合併

旧・成田市は、明治 22 年の町村制施行により誕生した成田町、八生町、中郷村、久住村、豊住村、遠山村、公津村の 7 町村が昭和 29 年 3 月 31 日に合併して誕生しました。

平成 18 年 3 月 27 日に旧・成田市に旧・下総町、旧・大栄町が編入され、新しい成田市となりました。

図表 平成 17 年 10 月 1 日現在の人口と旧市町の面積

	人口（人）	面積（k m ² ）
旧・成田市	100,717	131.27
旧・下総町	7,702	32.00
旧・大栄町	12,720	50.57
新・成田市	121,139	213.84

資料：国勢調査

② 鉄道・道路の開通

鉄道は、明治時代に観光の振興に力が入られるようになったことを契機に敷設の機運が高まり、成田鉄道が開通（現・JR 成田線）し、都心部の上野と直結されました。

また、大正 15 年には、京成電気軌道（現・京成電鉄）が開通しました。

そして、成田国際空港の開港に呼応し、昭和 53 年に京成スカイライナーが成田空港（現・東成田）に乗り入れるようになり、平成 3 年には成田空港まで JR 及び京成電鉄が開通しました。そして、平成 22 年には、京成電鉄成田空港線（成田スカイアクセス）が開業しました。

また、成田国際空港の開港を機に、高速道路も整備されました。昭和 47 年に新空港自動車道（現・東関東自動車道）富里 IC—成田 IC 間、昭和 53 年に新空港自動車道成田 IC—新空港 IC 間、昭和 60 年には東関東自動車道成田 IC—大栄 IC 間の供用が開始され、それに伴い、インターチェンジ等周辺には物流拠点施設や工業団地等が立地してきました。

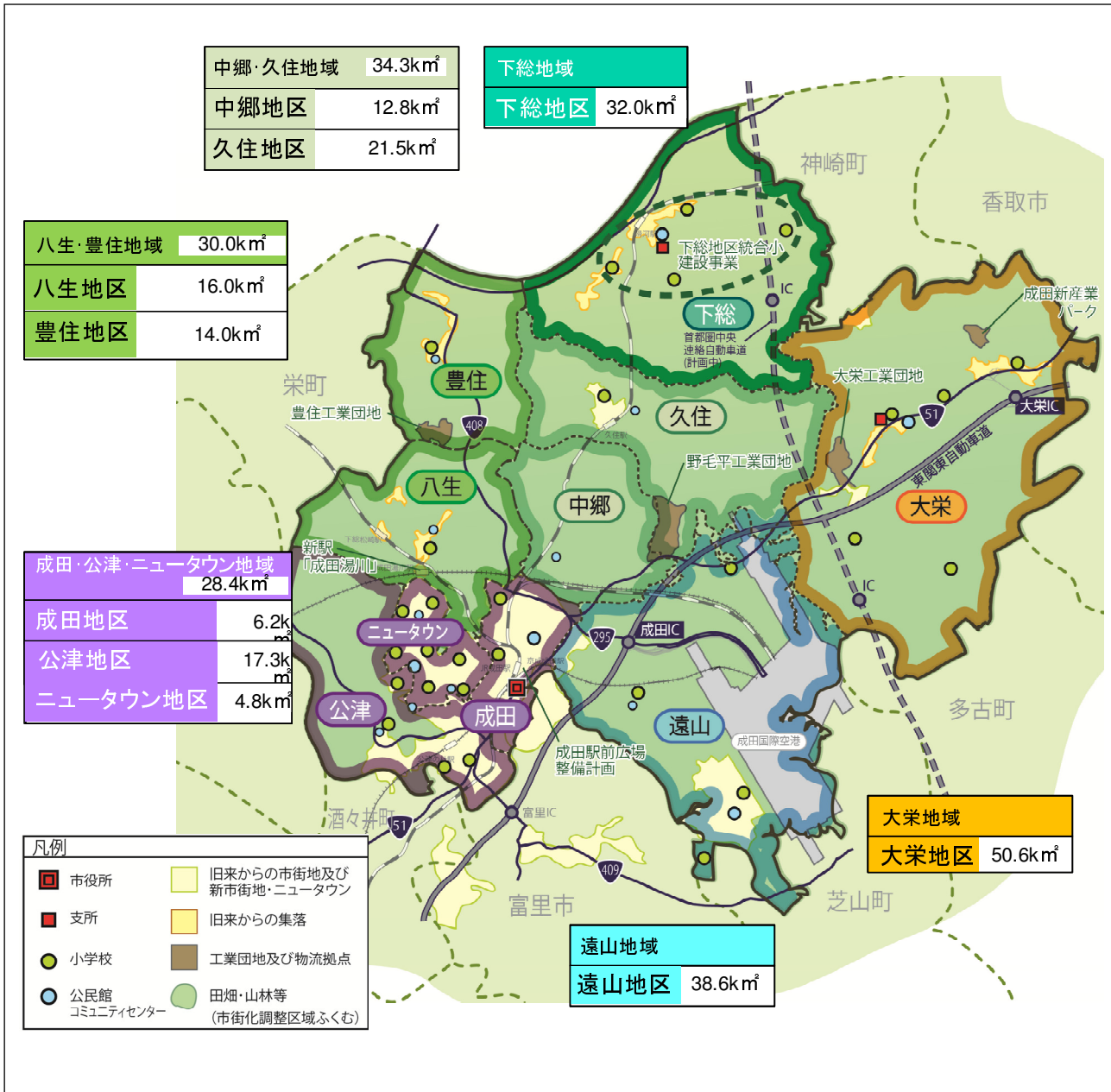
さらに、下総地域や大栄地域を縦断する首都圏中央連絡自動車道（圏央道）が建設中です。

鉄道網の整備等に伴い、成田地区、公津地区、ニュータウン地区、久住地区では住宅開発が進みました。また、成田国際空港のある遠山地区はホテルや物流施設が集積し、空港立地の波及効果で人口増加傾向が続いています。

③ 6地域 10地区の区分の考え方

成田市は、合併により都市計画法上3つの都市計画区域に区分されています。また、行政地区区分、市街地形成の状況などを考慮した基本単位である地域を6、市で設定している行政地区区分の基本単位である地区を10設定しています。

図表 6地域 10地区の区分



（３）空港関連による特色

成田国際空港は、昭和 53 年 5 月に 4,000 メートルの A 滑走路 1 本で開港し、平成 14 年 4 月に 2 本目の滑走路が、2,180 メートルの長さで暫定平行滑走路として供用を開始し、年間 20 万回を限度とした空港容量となりました。

その後、平成 21 年 10 月に暫定平行滑走路の北側への再延伸が行われ、本来の長さである 2,500 メートルの B 滑走路となり、平成 22 年 3 月より空港容量 22 万回が始動しました。

しかし、首都圏における航空需要の更なる拡大に対応するため、地元との協議により、平成 22 年 10 月、30 万回への容量拡大が合意され、現在、30 万回に向けての施設整備が進められています。

成田空港は、年間発着容量 30 万回の合意、同時離着陸方式の導入、更には、首都圏初のビジネスジェット専用ターミナルの誕生と、新たな動きにより国際拠点空港として、着実に空港の機能強化が図られています。

また、成田空港までのアクセスについては、都心や地方都市と空港をダイレクトに結ぶ高速バスや、スカイライナー・成田エクスプレスなどの鉄道アクセスがありますが、平成 22 年 7 月に都心と空港を最速 36 分で結ぶ成田スカイアクセスが開業するなど時間の短縮も図られています。さらに、押上駅と泉岳寺駅を地下バイパスで結ぶ都心直結線を建設し、東京駅前の地下に新東京駅を造り成田空港へ 36 分、羽田空港まで 18 分でつながる「都心直結線」構想を検討するため、国土交通省は平成 25 年度の調査費として 1 億 5,000 万円を計上し、東京都及び千葉県と事業化を見極める検討会議を設けることで合意しております。

また、近年、ジェットスター航空、エアプサン、イースター航空など LCC（格安航空会社）による、国際ネットワークの拡充が図られる中、平成 23 年にはスカイマークが成田空港より国内線を就航し、平成 24 年 7 月には、ジェットスター・ジャパン、8 月にはエアアジア・ジャパンの本邦 LCC 2 社が成田空港を拠点に就航を開始しました。これら LCC の就航に伴い、格安バスの運航も開始され都心とのバスアクセスも充実し、さらに、LCC の参入により新たな航空需要が生まれており、航空市場の拡大も図られています。現在、成田空港第 2 ターミナルの南北に LCC 対応の施設が整備されていますが、第 2 ターミナルに隣接する第 5 貨物地区に新たに LCC 専用ターミナルを平成 26 年度中に整備する計画となっております。

本市においても LCC 2 社の就航にあわせ、平成 24 年 7 月、県の制度と協調して、企業の本市内への進出や、市民の雇用を促進するため、企業誘致条例を拡充し雇用型の奨励措置を設けております。

成田空港は空港の施設整備に加え、オープンスカイなどによりさらなる国際航空ネットワークの拡充や国内路線の充実など、着実に空港機能の強化が進められており、成田空港のバランスのとれた豊富な国際航空ネットワークは、東アジアにおける国際拠点空港としての大きな強みとなっております。この位置付けは、今後、さらに重要度を増してくるものとなります。

これら航空ネットワークの拡充は、国際競争力の強化や空港利用者の利便性の向上につながるだけでなく、空港周辺地域の活性化や雇用の場の拡大など、地域経済の発展にも大きな効果をもたらすものとなります。

（４）開発動向

成田市は、成田国際空港関連就業者や空港建設に伴って流入する人々のための移住地区として成田ニュータウンを整備するなど、住宅開発を進めてきました。

また、成田国際空港開港以来、成田国際空港の旅客・貨物取扱動向や空港内施設整備や周辺関連企業立地の動向の影響を大きく受けながらも、人口増加、財政規模の拡大を遂げてきています。

①宅地開発

ニュータウン地区では、新住宅市街地開発事業として千葉県北総開発局（現・千葉県企業庁）、千葉県住宅供給公社等により開発された成田ニュータウンへの入居が昭和 47 年に始まりました。当初は、主に成田国際空港や空港関連企業で働く従業員向けに開発が計画されましたが、現在は千葉市や都内などに通勤する住民も多く居住しています。

成田地区においては、昭和 60 年から成田第一特定土地区画整理事業により美郷台地区の区画整理が実施され、中心通りに商業施設が並ぶ新興住宅地が形成されました。

公津地区では、昭和 61 年から公津東特定土地区画整理事業により京成本線公津の杜駅を中心に複合的な都市開発が進められ、また、平成 13 年から公津西特定土地区画整理事業も実施されました。

久住地区では、平成 5 年から 22 年かけ久住駅前土地区画整理事業が実施されました。

以上のように、成田ニュータウン以外では、主に区画整理事業により宅地開発が行われてきました。今後は、成田地区で不動ヶ岡地区土地区画整理事業が計画されています。

図表 成田市内の区画整理事業の概要

地区名	事業主体	計画人口（人）	事業期間	面積（ha）
成田駅西口	成田市	2,350	昭和 49 年 10 月～平成 2 年 6 月	23.5
京成成田駅東口	成田市	780	昭和 55 年 8 月～平成 6 年 10 月	6.5
成田第一	組合	6,020	昭和 55 年 9 月～平成 9 年 1 月	60.2
公津東	組合	11,740	昭和 61 年 9 月～平成 12 年 9 月	117.3
東和田・寺台	組合	613	平成 6 年 3 月～平成 12 年 3 月	6.1
土屋宮谷津	組合	216	平成 10 年 6 月～平成 15 年 12 月	2.7
土屋	組合	180	平成 4 年 10 月～平成 17 年 10 月	37.0
土屋房谷津	組合	344	平成 12 年 7 月～平成 19 年 12 月	3.4
久住駅前	組合	3,700	平成 5 年 6 月～平成 24 年 3 月	53.6
公津西	組合	3,800	平成 13 年 7 月～平成 23 年 6 月	37.6
不動ヶ岡	組合	未定	平成 25 年～平成 31 年（予定）	約 23.0

資料：成田市

また、周辺市町でも宅地開発が行われてきました。

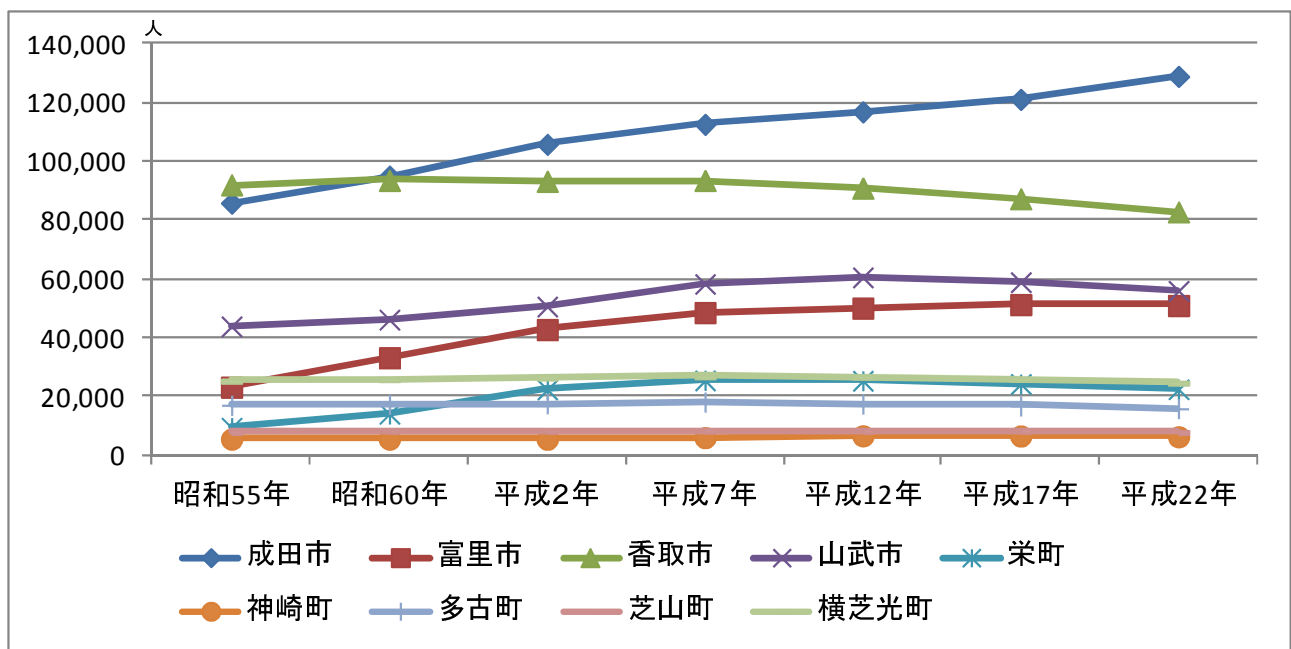
富里市では、成田国際空港から約 5km、京成成田駅から約 1 km 離れた日吉台地区で昭和 50 年から民間事業者により日吉台ニュータウンが整備されました。また、平成 11 年に七栄南新木戸土地区画整理事業が始まり（平成 23 年完了）、平成 13 年からは七栄北新木戸土地区画整理事業が

進められています。七栄北新木戸土地区画整理事業は平成28年度完了予定で、計画人口は2,000人です。

香取市では栗之岡団地、瑞穂台ニュータウン、山武市では日向ニュータウン、殿台ニュータウン、境山グリーンタウン、成東白幡ニュータウン、栄町では昭苑台、竜角寺団地、安食台、多古町では多古台住宅団地などが、民間事業者を中心に開発されてきました。

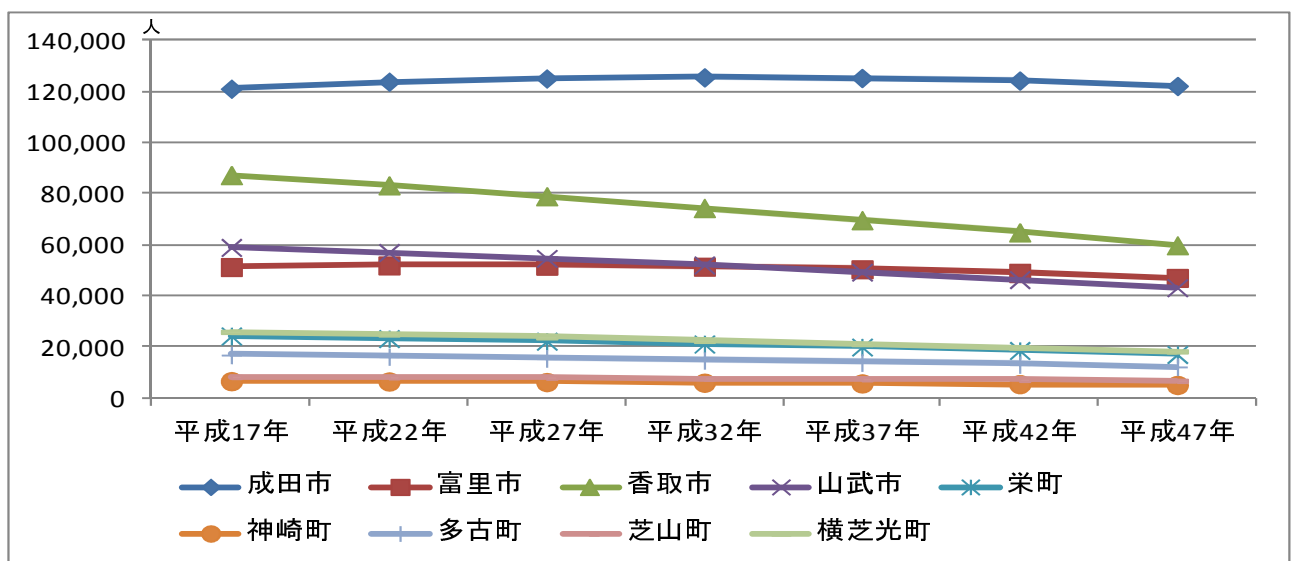
これらの宅地開発により、富里市、山武市、栄町などで人口が増加してきましたが、平成22年には成田市以外は人口は減少に転じています。

図表 成田市及び周辺市町の人口の推移



資料：国勢調査

図表 成田市及び周辺市町の推計人口



資料：日本の市区町村別将来推計人口（平成20年12月推計）

②工業団地・物流団地

久住地区に野毛平工業団地、豊住地区に豊住工業団地、大栄地区に大栄工業団地、成田新産業パークがあります。

図表 成田市内の工業団地・物流団地の概要（平成24年4月1日現在）

	工業団地			物流団地
	野毛平工業団地	豊住工業団地	大栄工業団地	成田新産業パーク
地区	久住	豊住	大栄	大栄
分譲開始	昭和47年	昭和50年	昭和62年	平成16年
面積（ha）	74.3	31.6	30.3	20.1
事業所数（社）	23	10	12	2
従業員数（人）	3,096	964	905	76
立地企業	戸田建設 堀口エンジニアリング 米屋 タルチンケスター 三和機材 東京航空クリーニング 昭和飛行機工業 鉄建建設 オリヂナル 日立ツール 大成化工 ジャムコ ウェーブロックインテリア ファインケメティックス 日本製薬 サウンドハウス ナルコ岩井 三菱ふそうトラック・バス サンリツ 日本通運 エコネット成田 ガラスソーシング フレッシュ食品	TDK エムオーテック ナリタ合成 ビギン 岡本製作所 神山鍛工 中央飼料 ライフテクノロジージャパン 東京航空クリーニング カワイチ・テック	東京空港交通 日本タービネテクノロジー 石川 クラシック リゾートコスチューミングサービス ジェシー・コムサ コスモ企業 第一熱処理工業 マークテック 町山製作所 江戸清 高級アルコール工業	ヤマサ醤油 イハラ建成工業

資料：成田市資料

4つの工業団地には合計47社が進出し、5,041人が働いています。現在2社が操業している成田新産業パークは平成24年9月に分譲が完了し、今後、3社が順次、操業開始予定です。

野毛平工業団地の堀口エンジニアリング（航空機用支援機材設計・製作・修理等）、昭和飛行機工業（航空機内装備品製造等）、ジャムコ（ホイール、客室装備品整備等）、ナルコ岩井（金属加工）、サンリツ（梱包事業、運輸事業、倉庫事業）、日本通運（物流施設）、野毛平工業団地、豊住工業団地の東京航空クリーニング（リネンサプライ）、大栄工業団地の東京空港交通（成田運行事業所）、クラシック（輸入切花専門商社）、コスモ企業（機内食製造等）など成田国際空港関連の企業も多く立地しています。

工業団地以外にも、ティエフケー、ジャル ロイヤル ケータリング、ゲートグルメジャパン（機内食製造等）、栄久リネンサプライ成田営業所、東急リネンサプライ成田工場などがあります。

成田市周辺には、富里市に富里工業団地、富里第二工業団地、富里臨空工業団地、芝山町に芝山工業団地、芝山（木崎）工業団地、芝山第二工業団地、空港南部工業団地があります。これらのうち、富里臨空工業団地は現在2区画が分譲中で、立地可能業種は製造業、物流業とされています。

芝山第二工業団地には犬塚製作所（特殊自動車の製作、販売等）、アルプス物流成田営業所（物流施設）、空港南部工業団地のプロロジスパーク成田3、GLP Narita に多くの物流関連企業が入居しています。

このように、成田市及びその周辺の工業団地には、成田国際空港関連の物流拠点や航空機部品等の工場が多く立地しています。

図表 成田市周辺の主な工業団地の概要

	富里臨空工業団地	芝山工業団地	芝山第二工業団地	空港南部工業団地
所在地	富里市	芝山町	芝山町	芝山町
面積（ha）	55	43.2	38.6	41.1
立地企業	—	豊澤商事 オーチス JX 日鉱日石 ANCI 亀井商事 太陽重工製作所 南総通運 ウィルコ 東京健康ランド ナイガイ 日本オーチスエレベーター ダイクエンジニアリング 千葉 インターライト 南容器工業 日本水産 叶産業 西尾レントオール	小久保製氷冷蔵 犬塚製作所 小野田ケミコ タカマサ 宇部フィルム エム・ワン 協成 コクヨアニチャー アルプス物流 石森製作所 トラスト	プロロジスパーク 成田3 GLP Narita 日新エアカーゴ 国際空港上屋 名鉄観光サービス 郵船ロジスティクス 西日本鉄道 パンテック 西濃シェンカー 東芝ロジスティクス 福山通運

資料：千葉県ホームページ、芝山町ホームページ

2. 市の人口特性

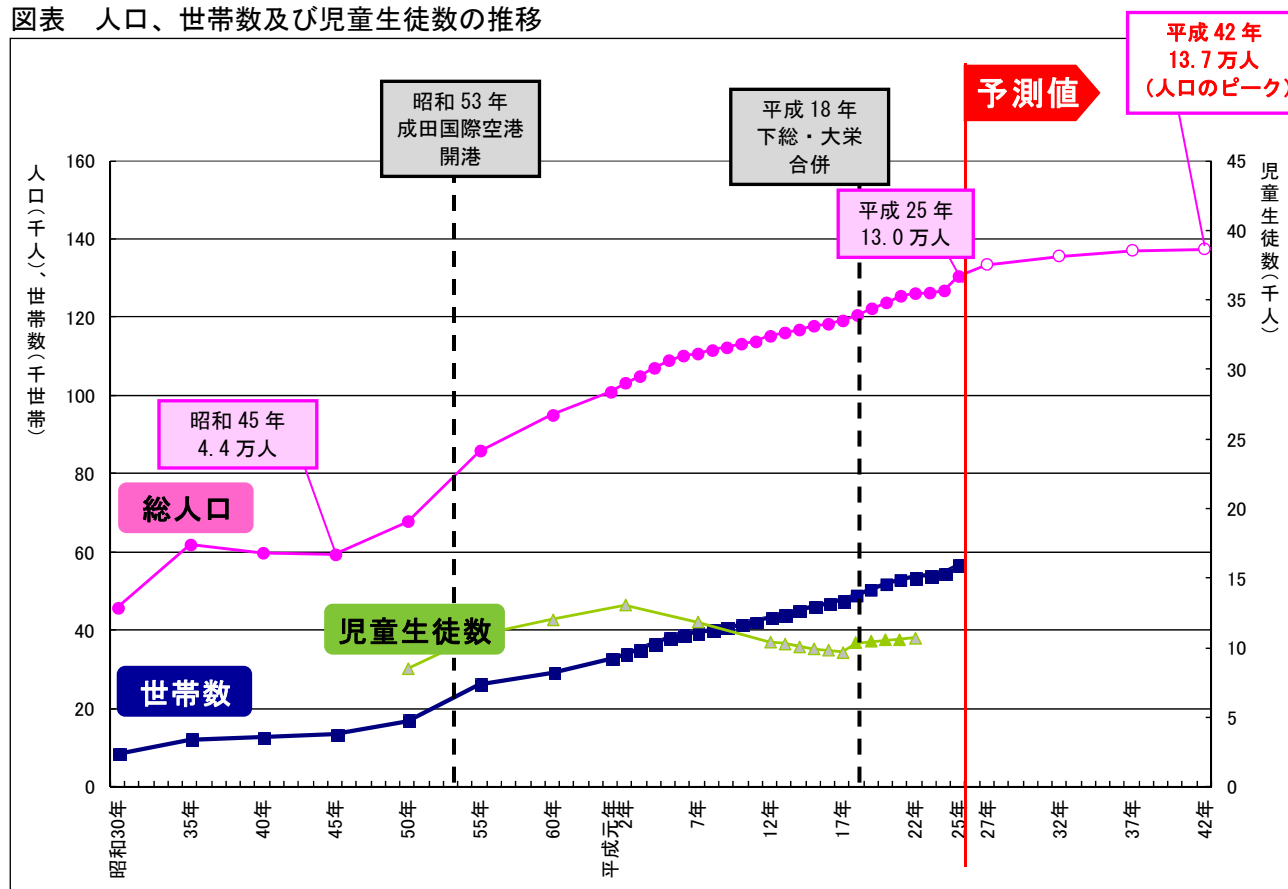
(1) 人口及び世帯数の推移

成田市の人口は、平成 25 年 3 月 31 日現在で 13 万 469 人となっています。

昭和 45 年の 4 万 3,983 人から、昭和 53 年の成田国際空港の開港後、成田国際空港就業者の転入等により人口が急増し、平成 18 年の旧・下総町、旧・大栄町との合併を経て、現在も人口は増加しています。

人口は、今後も微増傾向が続くことが予測され、平成 42 年に 13 万 7,408 人まで増加すると推計されています。

図表 人口、世帯数及び児童生徒数の推移

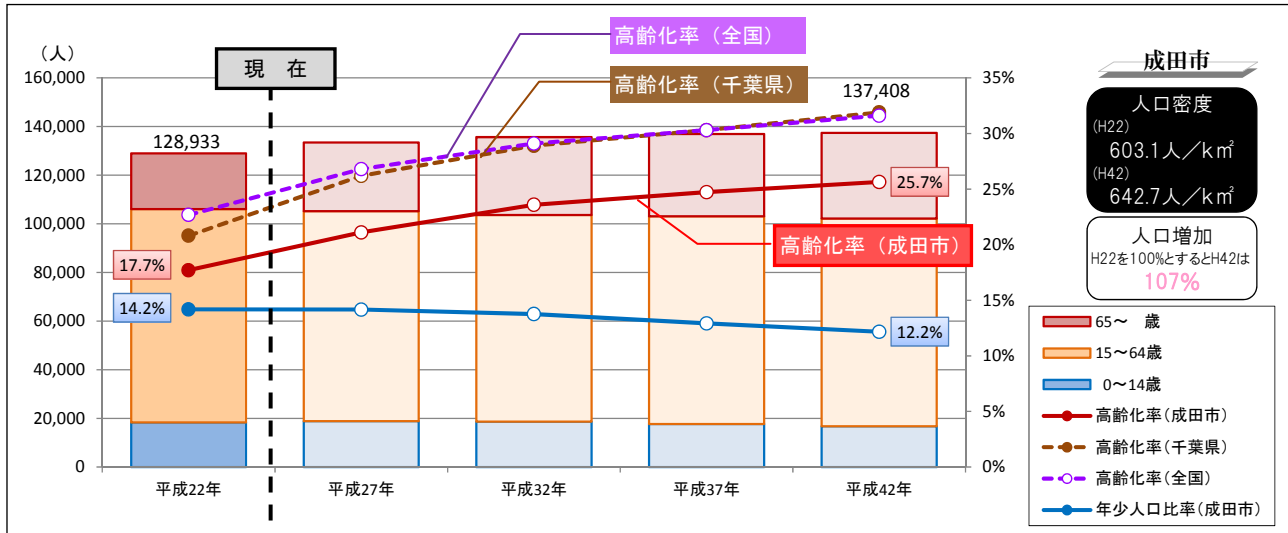


出典：平成 27 以降の将来人口推計は、「国立社会保障・人口問題研究所」の平成 25 年 3 月推計

(2) 高齢化率と年齢階層別人口推計

成田市の人口は微増傾向を続け、平成42年に13万7,408人まで増加すると予想されます。平成22年の高齢化率は、成田市は約18%で、千葉県の約21%や全国平均の約23%を下回っていますが、今後は少子高齢化が進みます。

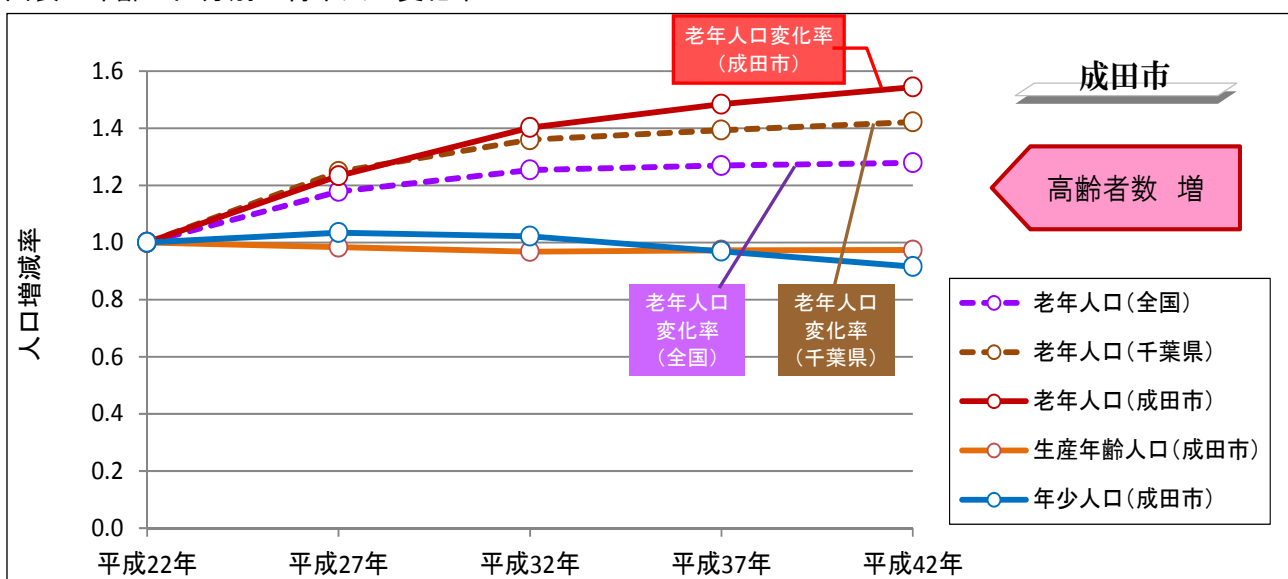
図表 年齢3区分別 将来人口の推計



(3) 高齢者数の推計

高齢者の変化率は、全国及び千葉県を上回る水準と予想されます。生産年齢人口は平成22年、年少人口は平成27年をピークに減少すると見込まれる一方で、高齢化率が上昇する見通しであるため、高齢化率の上昇への対策が必要です。

図表 年齢3区分別 将来人口変化率



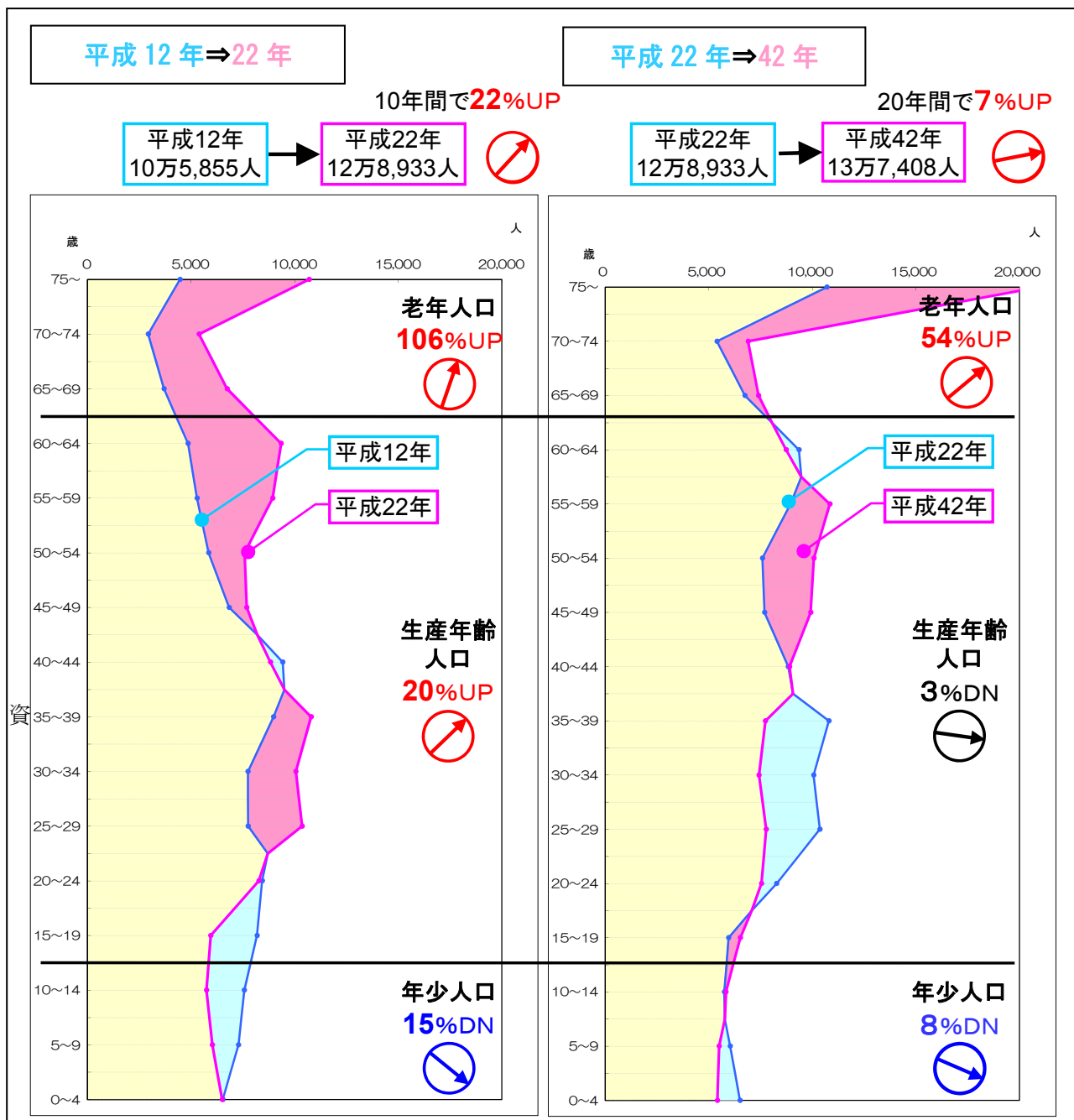
(4) 世代別人口推移及び推計

人口を世代別（5歳階級別）にみると、平成22年は20代後半から30代と、60代前半の二つの年齢階級を大きな頂点とした構成になっており、概ね年齢が若くなるにしたがって人口が少なくなっています。

平成12年から平成22年の人口推移をみると、全体では人口が増加したものの、若年層の人口が減少した一方で、20代後半から30代と老年人口は増加しました。

20年後には、20代が増加し、それに伴い年少人口も増加すると見込まれますが、平成22年に20代後半から30代だった年齢階級が20歳年を取り、75歳以上の後期高齢者も大きく増加します。20代後半、40代後半から50代、75歳以上の三つの年齢階級に大きな頂点があります。

図表 5歳階級別 人口推移及び将来人口推計

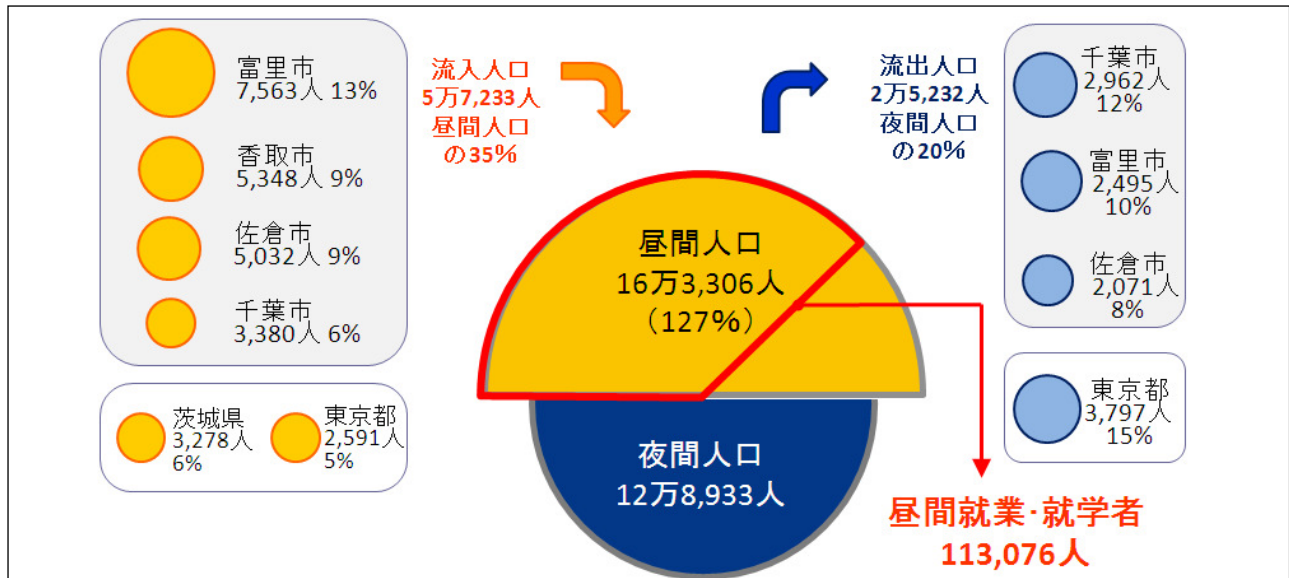


3. 流出入人口等の把握及び転出入人口の把握

(1) 流出入人口の把握

成田市の昼間人口は16万3,306人（夜間人口の約127%）となっています。流出人口は2万5,232人、流入人口は5万7,233人と、流入人口が流出人口の2.3倍と非常に大きくなっています。流入人口の多くは成田市の周辺市（富里市、香取市、佐倉市等）で、茨城県、東京都等からも流入しています。そのほか、成田国際空港を年間約3,500万人、1日当たり約10万人が利用しています。

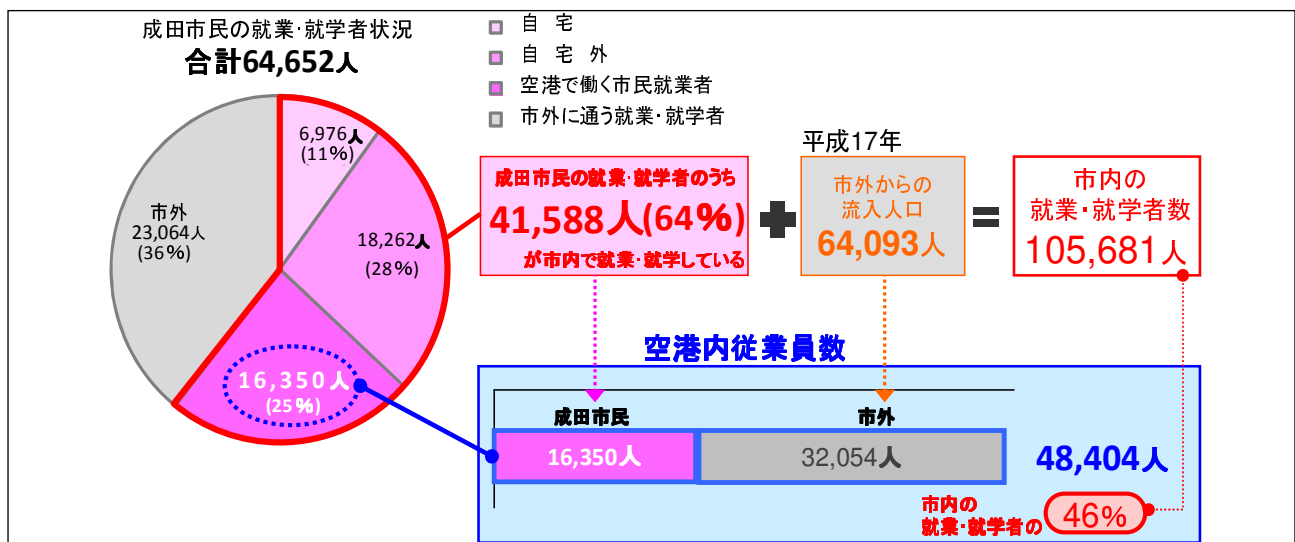
図表 流出入人口



資料：平成22年国勢調査

平成17年国勢調査で成田市民の就業・就学者数は約6.5万人で、そのうち約4.2万人（約64%）の市民が市内で活動しています。さらに、流入人口約6.4万人（平成17年国勢調査）を合算した約10.6万人が市内の就業・就学者になります。成田国際空港では、市民の約1.6万人を含む約4.8万人が働いています。これは、市内の就業・就学者の約46%にあたります。また、成田国際空港周辺の物流事業者等の従業員もあわせると、市内の昼間人口の相当数が成田国際空港に関連していると考えられます。

図表 成田市民の就業・就学者状況



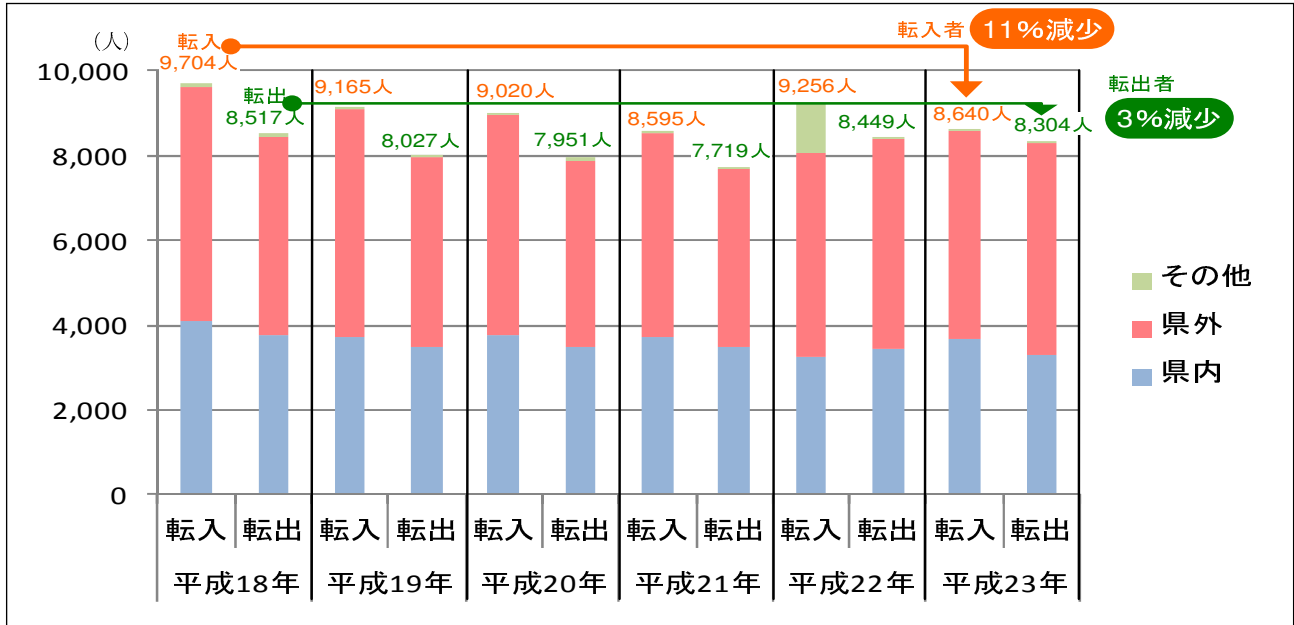
資料：平成17年国勢調査

(2) 転出入人口の把握

平成18年から平成20年にかけての転出入状況は年間1,000人超、平成21年及び平成22年は年間800人程度の転入超過でしたが、平成23年は336人の転入超過にとどまりました。

転入人口は平成22年を除き減少傾向です。一方で、転出人口は平成21年まで減少していましたが、平成22年以降は県外への転出が増加しています。

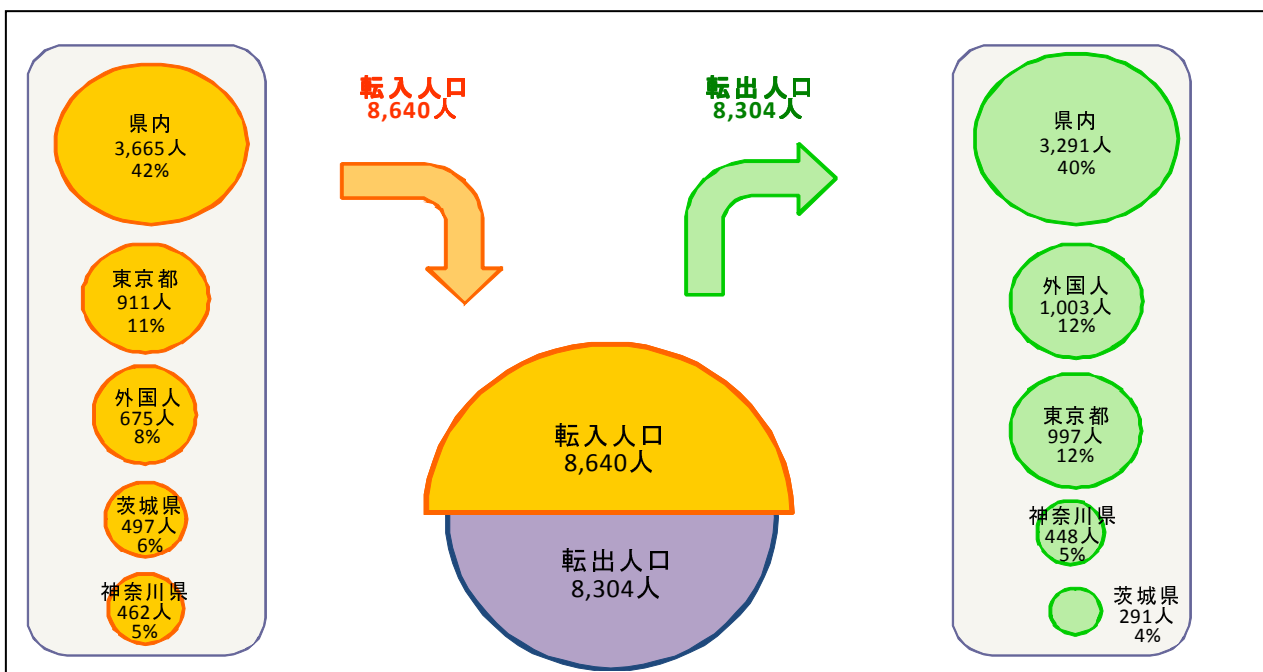
図表 転出入人口の推移



資料：千葉県毎月常住人口調査報告書（年報）

平成23年の転入人口は県内、東京都、外国人、茨城県、神奈川県の順になっています。転出人口は県内、外国人、東京都、神奈川県、茨城県の順です。

図表 転出入人口の内訳（平成23年）



資料：千葉県毎月常住人口調査報告書（年報）